レオナルド・ダ・ヴィンチ作「最後の晩餐」の新しさ(2)

藤原 えりみ

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

序論	本論			結論
1・2	3・4	5	6	7
レオナルド・ダ・ヴィンチ作「最後の晩餐」は、※ルネサンスを代表する美術作品の一つとされる。「最後の晩餐」は古くから描かれてきたが、レオナルドの作品は何が新しかったのか。	**過去の作品との構図の比較** ❶六世紀、作者不詳 人物を重ねる。 ❷十四世紀、ジョット 人物に背を向かせる。 ❸十五世紀中頃、カスターニョ ユダのみを手前に配置する。奥行きが生まれ、人物の感情表現も豊かだが、動きは少ない。 ❹十五世紀末、レオナルド 構図が画期的で、奥行きが格段に増している。使徒の様子が、画面に動きを与えている。使徒の腕の動きやまなざしには、キリストに視線を誘導する効果もある。	**過去の作品との人物の描き方の比較** レオナルドの「最後の晩餐」は光輪を描いていない。聖書の中の出来事を現実の情景として描こうとしたのだろう。	**修復で明らかになった緻密な描写** 修復によって、レオナルドの「最後の晩餐」の緻密な描写が明らかになった。	レオナルドの「最後の晩餐」は、その新しさで人々を驚かせ、魅了した。

（1～7は教科書本文における形式段落番号を表します）

※ルネサンス…十四世紀頃にイタリアを中心として起こった、古典文化を理想とした文化の革新運動。

文章の比較

文章を観点ごとに比較すると、各文章の特徴(とくちょう)がはっきりする。

	君は「最後の晩餐」を知っているか	「最後の晩餐」の新しさ
作品への評価	かっこいい	新しい
着眼点	解剖学(かいぼうがく)、遠近法、明暗法といった絵画の科学	構図、表現（光輪）、緻密な描写
文章の種類	評論（物事を評価し、自分の見方を論じる）	解説（物事をわかりやすく説明する）
説明のしかた	作品への評価を述べ、その魅力を絵画の科学の観点から分析(ぶんせき)している。	作品の新しさを、他の作品との比較から説明している。
表現の特徴	比喩(ひゆ)を用いた表現や、読者に問いかけたり、語りかけたりする表現が使われている。	事実を客観的に述べている。

確認テスト

教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) レオナルドの「最後の晩餐」に当てはまるものを選びなさい。

ア 構図が画期的で、奥行きも過去の作品に比べて増している。

イ キリストの腕の動きやまなざしが使徒の視線を誘導している。

ウ 人物の頭部の光輪が、極めて緻密に描写されている。

〔　　〕

(2) 「『最後の晩餐』の新しさ」の内容に合うものを二つ選びなさい。

ア 「最後の晩餐」に感じるかっこよさを、絵画の科学を説明しながら分析的に論じている。

イ レオナルドの「最後の晩餐」の新しさを、過去の「最後の晩餐」との比較から説明している。

ウ 修復作業によって明らかになったレオナルドの「最後の晩餐」の緻密な描写を解説している。

エ 細部が失われたことによってかえって見えるようになった「最後の晩餐」の魅力を述べている。

〔　　・　　〕